

[SPECIAL FEATURE]

TOKYO AUTO SALON 2016

最新トレンド&最新プロダクトをフルにつかみ取る!

AUDI EXCLUSIVE

尽きることのないオーディオモディファイド

アウディA6 GT/TTクーペ&J/TT5クーペBS
A5/A5S/アウディQ7 4L

Life Style MERCEDES-BENZ

メルセデスベンツGLS63AMG
カーオーディオ1173システム based on
メルセデスベンツGLSシュートイングブレーク

JPN WHEEL 2016

メイドインジャパンという新トレンド

US & TUNER BRAND WHEELS

種がせだくなる低価格ブランド

ES

エスフォー
EURO MOTIVE MAGAZINE

61

2016 MARCH

刺激的でセンス溢れる
ユーロスタイルを提案します

Style Powered Super Car

BMW i8

VOLKS PASSAT FOLKS

フォルクスワーゲン・パサートヴァリアント
パサート2.5SE, US Spec.

MERCEDES-AMG GT S

[TOP ISSUE]

SUPER SPORT & EXOTICS

頂点モディファイド

メルセデスAMG GT S / ランボルギーニ・ウラカン
ランボルギーニ・アヴェンタドール
フェラーリ458イタリア / ボルシェ911カレラS

GEIBUN MOOK

ISSN 1345-321X



Top Modified
 SUPER SPORT & EXOTICS 頂点モディファイド

VI2_MID SHIP LAYOUT_4WD_LIMITED EDITION_SUPER CAR
**LAMBORGHINI AVENTADOR
 LP700-4 PIRELLI EDITION**

CALL>>EC.SPEC (イーンズスペック) [092]406-1414 www.ec-spec.jp
 HYPER FORGED WHEELS (ハイパーフォージドホイールズ)
 [072]256-6664 www.hyperforgedwheels.com
 PHOTO>>NOBUTAKA KOREMOTO (是本信高)

SPECIFICATIONS
LAMBORGHINI AVENTADOR LP700-4 PIRELLI EDITION
 WHEEL HYPER FORGED>>HF-LC5 F:20×9.5 R:21×13.5
 Finish:Brushed Anodized Gold Disk + Brushed Anodized Gold Rim
 TIRE PIRELLI>>P ZERO-L F:255/30R20 R:355/25R21
 SUSPENSION S&COMPANY>>HNS Lowing Kit
 EXHAUST FI EXHAUST>>Full Exhaust System

VI2_MID SHIP LAYOUT_4WD_LIMITED EDITION_SUPER CAR
**LAMBORGHINI AVENTADOR
 LP700-4 PIRELLI EDITION**

ランボにはハイパー



限定車ピレリエディションのイエローと合わせるために、マットゴールドのハイパーフォージド HF-LC5 を選択。車高はエスカンの HNS ローリングキットで落としている。

サイズを太くするとこで車高を低めるという発想

“ランボルギーニにハイパーフォージド”、“純正サイズのタイヤが履けて極限までシャコタンに”という2つのテーマで製作された、このランボルギーニ・アヴェンタドール LP700-4。しかもベースは限定のピレリエディションという、なにげに難しいこのテーマにチャレンジしたのは福岡・EC スペック。

ハイパーフォージドをランボルギーニに履かせるって王道なホイール選びなんだけれど、サイズを含めてほかのハイパー履きのランボとどう差別化するのか？ そこがキモ。ECスペックではHF-LC5のフィニッシュにピレリエディションのイエローとマッチするマットゴールドをオーダー。アナダイズゴールドでブラッシュドというフィニッシュ。これ、ゴールドの色のクオリティコントロールが難しいため、ふだんは注文を受け付けてもらえないのだが、いろいろ条件をクリアして発注&完成。これがほかにはない LC5 になった。

さらにサイズでも EC スペックはチャレンジ。ハイパーフォージドでは、これまで多数のアヴェンタドールへの装着例があるから、サイズは決まっている。20×9.0 / 21×13.0あるいは21×9.0 / 22×13.0だ。ところがECスペック、極限まで車高を落としてアヴェンタドールをカッコよく見

せたいため、20×9.5と21×13.5をオーダー。タイヤは純正と同じ255/30R20と355/25R21サイズのランボルギーニ認証ピレリ・Pゼロ-Lを履かせて、車高はエス&カンパニーのHNS ローリングキットでガバッと落とす。

と、どうなるか？
 リア側で355なんて幅のワイドタイヤでも、通常よりハーフインチ上げたリム幅13.5ではちょっとだけ引っ張り気味になって、わずかだけどフェンダーとのクリアランスが増える。これが、355とリム幅13.0の組み合わせではショルターが立ってしまうから、この車高にはできないというのだ。

なるほど、シャコタンベシャリストのECスペックでは、こんな逆転の発想的サイズ設定で、このイエローのアヴェンタドールの車高をここまで低めていたのだ。地面のクリアランスはまさに極限まで低くて、道路以外どこにも見えないように見えるが、それは心配ない。フロントには純正のリフターシステムが搭載されているから、段差のある駐車場への進入もしやすくなっているのだ。

車高はサスだけで落すものではない。ECスペックの手法のように、ホイールとタイヤのサイズでも落とせるというのが、前述の2つの命題の解答なのだ。



カラーが安定しづらいため、ハイパーフォージドでもあまりオーダーを受け付けないというゴールドアナダイズブラッシュド。リムも同じフィニッシュ。



1 エンジンのルーバー部分が透明になっているのも、ピレリエディションらしさのひとつ。2 シートが赤いストライプやレッドステッチで仕上げられるのが、ピレリエディションの特徴だ。

AUDI EXCLUSIVE
AUDI Q7 3.0TFSI QUATTRO

01



SUVこそ快適にカッコよくアジをキメたい
ドライバビリティの秘密

OWNER>> 藤野サン
 CALL>> J FACTORY (ジェイファクトリー) www.jfac.co.jp
 MODEL>> 妻さえこ
 PHOTO>> TOSHIO NOGUCHI (のぐちとしお)



SPECIFICATIONS /// AUDI Q7 3.0TFSI QUATTRO

WHEEL >> HYPER FORGED WHEELS>>HF-C5.2 F:22x10.0 R:22x10.0 Finish:Brushed Light Bronze Anodized Disk+Hi Polish Rim
TIRE >> PIRELLI>>SCORPION ZERO F:295/30R22 R:295/30R22
SUSPENSION >> KW>>Ver.3 Adjustable Coilover

キレイなジョシを隣に乗せて、都会のオシャレストリートに乗り付ける——なんてベタなシーンが連想されるアッパー系SUVだけど、実際のところ、こんな感じで乗って難しい。難しいというのは、オーナーのルックスとか財力とか、そういう要素じゃなくて、クルマ作りに関しての話。ここしばらくのSUVモディファイといえば、ホイール&タイヤとサスを交換してサラッと乗るといふノリだけど、このサラッと乗るのが難しいってこと。

欧州アッパー系SUVの車高を落として乗ったことがある人ならご存じだと思うが、アッパー系SUVはメイクスに限らず、安易にローダウンスプリングで車高を落とすと、乗り心地がひどいことになる。PとかMとか高級車でもそれは一緒。隣にジョシを乗

せたら、かなりの確率でゲロゲロになってしまって、まずサラッと乗れない。

で、このアウディQ7を手掛けた群馬・ジェイファクトリーでは、グダグダになってしまったアッパー系SUVを多数レスキューしてきた経験もあり、MサンのQ7にはKW Ver.3車高調を組み込んだ。KW Ver.3は、Q7にこそバツグンのマッチングを見せる。Q7用のリア側ダンパーにはリザーバータンク (=別タン) が付くおかげで、ローダウンしても余裕ができ、ノーマルと同等なドライバビリティ (乗り心地も1つの要素) をキープしてくれるからだ。

ハイパフォーマンスカー用だと思われがちな別タン付きダンパーだが、ストロークがとくに短い車種をローダウンしたときにはかなり有効。Ver.3の別タ

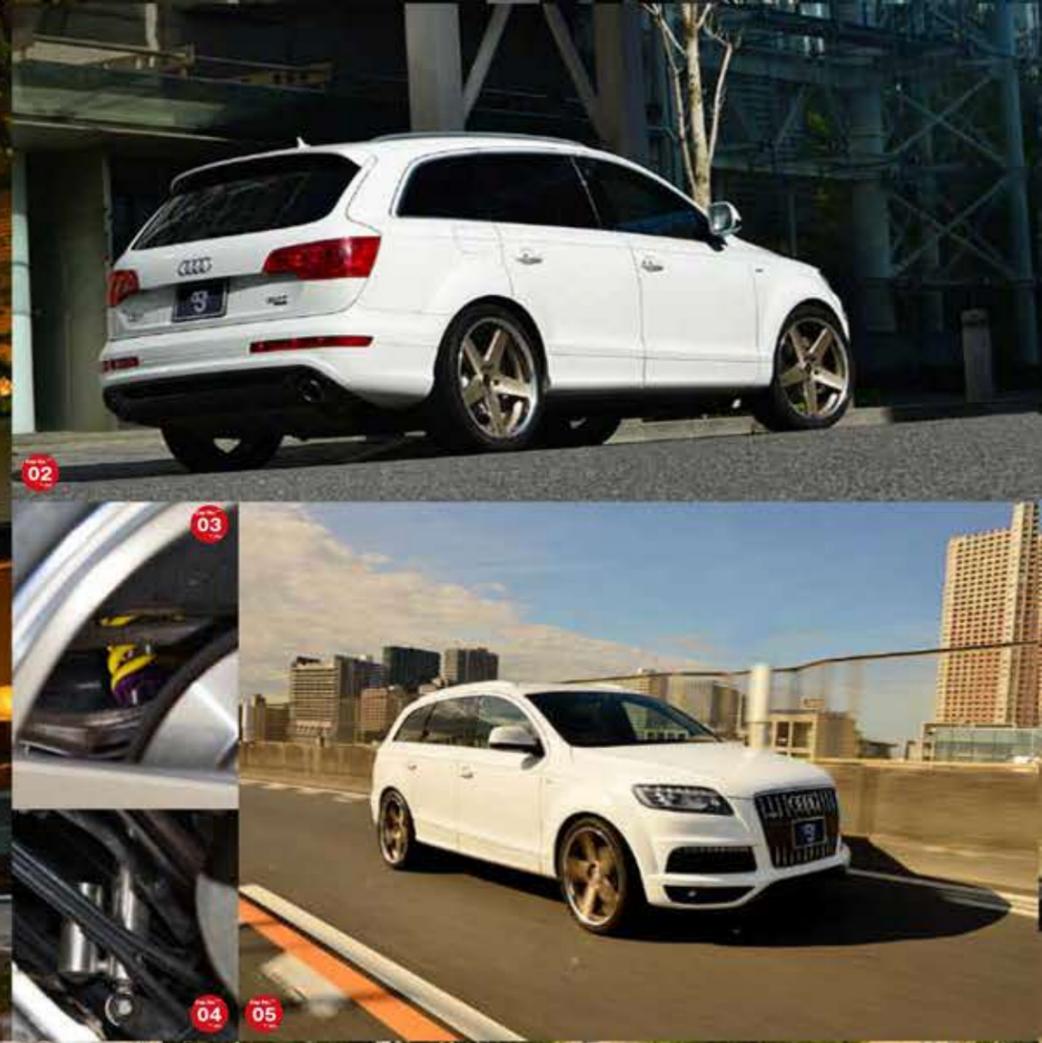
ン仕様 (KW社ではバネ下重量が増えてクルマの運動性能に影響するために別タンは好ましくないというが) は、特定の車種に限って設定するが、Q7ではバネ下重量が増加するデメリット以上に、乗り心地などドライバビリティのメリットを取った。

ホイールにはハイパーフォージドで定番の人気のHF-C5.2の22x10.0、タイヤも定番の人気のピレリ・スコーピオンゼロ295/30R22を前後にマウント。オプティカルはサラッとオシャレに作ってみせた。

サラットとは言うものの、Q7用KW Ver.3と22インチのHF-C5.2の組み合わせはヘビー級の高額コンビネーションになるけれど、アッパー系SUVをオシャレにライフスタイルを感じさせるように乗りた

01 丸の内ストリートに、キレイなジョシと乗り付ける！
 02 背の高いSUVはローダウンしてこそフォルムのカッコ良さが引き立てられる。ローリング量は50mm程度。
 03 Q7のリアサスは、パッセンジャー系のアウディとは違ってコイルオーバータイプ。ノーマルダンパーをスプリングだけで低めてはいけない。
 04 このアウディQ7のキモはこの部分。KW Ver.3のリザーバータンク (=別タン)。ノイズを低減するためのバルブなどが入っているが、乗り味の良さにも大きく貢献している。
 05 走りはまさに上質。Q7用のKW Ver.3は70万円とかなり高額だが、ここにお金をかけてこそ走り。
 06 ホワイトのボディにブロンズアルマイトの5本スポーク。定番だけど洗練度の高さは満点だ。

06



AUDI EXCLUSIVE



存在感放ちまくりのアバント作り

ロイヤルフラッシュ!

CALL>>T'S CLUB (ティーズクラブ) [079]437-9224 www.ts-club.com
PHOTO>>TARO KODA (幸田太郎・スタジオルーツ)
TEXT>>AKIRA OKAMOTO (岡本晃・オフィスアヘッド)

AUDI EXCLUSIVE

SPECIFICATIONS /// AUDI S4 AVANT 2011

WHEEL >>> HYPER FORGED>>HF-LC5 F:20x9.5J R:20inchx9.5J
TIRE >>> HANKOOK>>Ventus V12evo F:245/30R20 R:245/30R20
SUSPENSION >>> KW>>Ver.3 Adjustable Coilover
BRAKE >>> BREMBO>>F:6-piston Caliper+350mm Rotor R:320mm Rotor
ENGINE >>> macars>>Custom ECU Programing, Gruppe M>>Air Intake System
EXHAUST >>> MILLTEK SPORT>>R Muffler
INTERIOR >>> AS SPORT>>F Lip Spoiler/R Diffuser, AUDI>>RS4 Bumper Custom Fitted

AUDI EXCLUSIVE

AUDI S4 AVANT



01



02



03

01 RS4バンパーを加工装着し、ASシュボルトのFリップスポイラーをセレクト。ポイントに艶ありのブラックを入れ込んで、レーシーなフェイスに仕上げている。フォグ横にはデイトライトをプラス。
02 オーバルのマットブラックテール仕様ミルテックススポーツのマフラーを、ダウンパイプより装着。街中では静かだけど、踏み込んだときの重厚なサウンドが心地よい。
03 グループMのカーボンのエアインテークに加え、メーカーズによるECUプログラムにより、最高出力が333→385psにアップ! 圧倒的な加速とトルクでスポーツカーを追いかけ回す。
04 サムライプラーのボディに、ゴールドのハイパーフォージドLC5がひと際刺激的。KWサスペンションと合わせ、絶妙なロワードフォルム。
05 スタイルリングを決定するハイパーフォージドHF-LC5(20x9.5)。鈍い輝きのゴールドディスクと、艶のないゴールドリムに視線が惹きつけられる。フェンダー加工はもちろん、スペーサーもなし。



05

好きな色って人それぞれだけど、ゴールドってだれにとっても特別な色。太古の昔から、ゴールドは高価とか豊かさの象徴って決まっているんだけど、それがネガティブになると成金とか傲慢の意味に逆転ちゃう。つまりゴールドは使い方によって、諸刃の剣的なカラーとなってしまふワケだ。

もちろん組み合わせも大切だ。一般的に、ゴールドを引き立てるのは、白、黒、グレー、茶、そしてブルー。別のカラーと合わせることで、ゴールドをいかに引き立てられるかがポイントになる。

モディファイシーンでも、このところゴールドのホイールは大人気。兵庫のティーズクラブが仕上げたこのアウディ S4 アバントは、そんな好例。サム

ライプラーのアバントボディとゴールドのハイパーフォージド HF-LC5。どちらが主役で引き立て役か。それは見る側の判断に譲るとして、この刺激はなかなかだ。派手すぎず、落ち着きすぎないゴールドディスクと、鈍い光を放つゴールドリム。カラーのセレクトは、ハイパーフォージドと何度も話し合っで決定したものらしい。サイズについては、ティーズクラブで実測してオーダーしたもの。フェンダー加工はもちろん、スペーサーなしで抜群のスタイリングを手に入れている。

エクステリアは、ASシュボルトのFリップも付け加えてRS4マスクに変身しているが、このS4アバントは中身もパワフルに強化される。排気系はミ

ルテックススポーツの両側出しオーバルマフラーをダウンパイプから装着。普段は静かなんだけど、一度アクセルを踏み込むと太く重いサウンドを発生。吸気系にはグループMのエアインテークシステム、そして極めつけは、メーカーズのECUチューニングプログラムだ。メーカーズに持ち込んで現車合わせで仕上げられたECUチューンを施し、最高出力を333→385psへと大幅にアップさせて、圧倒的な加速感とぶっといトルクを手に入れている! 「見せかけだけでなく、しっかり走れて乗り心地の良いクルマがコンセプト。このS4アバントは、今後さらに進化させていきます」と、まだまだモディファイをすすめていく決意を語ってくれた。

履かせたくなる厳選3ブランド
**US & TUNER
BRAND WHEELS**

OWNER>> 峰森サン(アウディ S5 スポーツバック)、吉野サン(メルセデス・ベンツ CLA45AMG)
CALL>> Office_Az (オフィスアズ) [0749]42-7568 www.office-az.com
HYPER FORGED WHEELS (ハイパーフォージドホイールズ) [072]256-6664 www.hyperforgedwheels.com
PHOTO>> TOSHIO NOGUCHI (のぐちとしお)

HYPER FORGED HF-C7

× AUDI S5 SPORTBACK

HYPER FORGED HF 24-S

× MERCEDES-BENZ CLA45AMG



■SPECIFICATIONS AUDI S5 SPORTBACK
WHEEL HYPER FORGED>>HF-C7 F:20×9.5J R:20×11.0J Finish:Brushed Bronze Anodized Disk + Hi-polish Rim
TIRE PIRELLI>>P-ZERO Nero F:255/30R20 R:305/25R20
SUSPENSION Scherzen Technology>>Scherzen by Extend Adjustable Coilover

■SPECIFICATIONS MERCEDES-BENZ CLA45AMG
WHEEL HYPER FORGED>>HF 24-S F:19×8.5J R:19×8.5J Finish:Brushed Black Anodized Disk + Black Anodized Rim
TIRE PIRELLI>>P-ZERO F:235/35R19 R:235/35R19
SUSPENSION Scherzen Technology>>Scherzen by Extend Adjustable Coilover



リア側は20×11.0J。リム幅はいっぱいいっぱいというか、ひとこなら出過ぎという感じだが、今はこのくらいの出面がナイス。



ハイパーを履いたS5スポーツバックを取引先の社長に見せたところ、「ハイパーいったんだね」と言われてうれしかったという峰森サン。現在、アウディ5番モディファイの主流は、B8.5のS、ボディスタリングはAの5番とほとんど変わらないのに、乗り比べてみると質感が大きく違う。



場所は、滋賀・近江商人街。歴史も雰囲気もあるのに、観光地化があまり進んでいないから、オトナの観光スポットというべき穴場。

ハイパーフォージド HF-C7 ●鍛造3ピース ●サイズ:(リバースリム) 19×7.5 ~ 14.0J、(リバースリム) 20×7.5 ~ 15.0J、(リバースリム)21×7.5 ~ 14.0J、(ステップリム)21×7.5 ~ 11.5J、(リバースリム)22×8.5 ~ 14.0J ●P.C.D:4H-100、5H100 ~ 130 ●価格:(19インチ) 12万8000 ~ 17万8000円+税、(20インチ) 13万8000 ~ 19万4000円+税、(21インチ) 17万1000 ~ 23万9000円+税、(22インチ) 22万3000 ~ 32万1000円+税 ●カラー:(標準リムカラー)アウター:ハイポリッシュリム/インナー:シルバースリム (オプションリムカラー)ブラックアルマイトリム、ブロンズアルマイトリム、ライトブロンズアルマイトリム、ブラッシュドアルマイトリム 1万3000円UP (オプションインナーリムカラー)ブラックアルマイトリム 6500円UP ●ディスクデザイン:(19、20、21インチ)セミコンケープ&ディープコンケープ (22インチ)セミコンケープ ●ピアスポルト:(標準)クロムピアスポルト (オプション)マットブラックピアスポルト/クラシカルピアスポルト 2500円UP ●センターキャップ:(標準)クロムベース/HYPER文字ブラック/ORGED文字レド、ブラックベース/HYPER文字ブラック/ORGED文字レド、ブラックアルマイトベース/HYPER文字シルバー/ORGED文字レド (オプション)フェラーリ&マセラティ 純正CAP対応アダプター(ABS製) 8000円UP

色あせないハイパー

トレンドに左右されないザ・定番鍛造ホイールを履く

アウディS5スポーツバックとハイパーフォージドHF-C7、メルセデス・ベンツCLA45AMGとハイパーフォージドHF 24-S。この2台が履くハイパーフォージドホイールがデビューしたのは、2011年10月と2012年1月。どちらも車両が登場する以前に発売されたモデルだ。鍛造ホイールの業界はトレンドがめまぐるしく変化し、2年もたてばちょっと古めかしさを感じさせるようになる製品がほとんどなのに、ハイパーフォージドだけはそうじゃない。つい先ごろ、滋賀・オフィスアズのプロデュースで完成したこの2台を見てわかるように、両ホイールの登場から丸4年が経過した2016年1月現在でも、新鮮だ。

S5スポーツバックのHF-C7は、3ピース鍛造ディープコンケープ。20×9.5Jと11.0Jを255/30R20と

305/25R20のピレリPゼロ・ネロと組み合わせ、そのツラ具合はほぼ限界の設定。これ以上リム幅を拡げたいなら、タイヤサイズのほうで妥協する必要が出てくる。もっともこのサイズ、スタンス系というやりすぎトレンドが出てきたおかげでセーフになったものであり、ちょっと前ならアウトかセーフか判定不能なハイレベル!? ブロンズアナダイズドのディスクとハイポリッシュのリムのコンビネーションも定番系だし、色あせることがない。

CLA45AMGのHF 24-Sは、2ピース鍛造。デザイン的にはコンケープではないものの、使っている素材(フォージング)はコンケープと一緒にもの。高級素材を選んでフラットに見せつつ、その一方で立体的な削り込みがなされている。で、このHF 24-Sはメルセデスにこそふさわしいモデル。というのも、メルセデスはフ

ロントレッドが広めの設定だから、もともとコンケープデザインホイールを履かせることができない。だからこそ、コンケープを使わないで立体感のあるデザインで勝負するHF 24-Sが似合うってことだ。

フロントとリアはともに19×8.5J、タイヤもピレリPゼロの235/35R19を前後にマウント。リアのインセットをちょっとだけ変えて、オフセットスタagger的に見せることで、立体感強調系とした。とくにリアビューを見てみると、新しい感じのツラ具合。

オフィスアズが両車に込めたサイズ設定とタイヤの選定が、この2台のフレッシュな感じを生み出しているのは間違いないのだが、そうした狙いを実現できる息の長いデザインこそ、ハイパーフォージドの真髄。まさにホイールのスペシャルチューナーと呼ぶにふさわしい。



初めて乗ったヨーロッパ車に、鍛造を履かせたという吉野サン。一度いいホイールを履くと、もうノーマルは見れないとか。



車高はシャーゼン・バイ・エクステンド車高調でロード。スプリングを代えただけのころより、ドライバビリティが大幅にアップした。



わずか2Lの直4エンジンから、360psを発揮するコンパクトモンスター・CLA45AMG。

ハイパーフォージド HF-24S ●鍛造2ピース ●サイズ:(リバースリム) 19×7.5 ~ 12.0J、(リバースリム) 20×8.0 ~ 12.5J、(ステップリム) 20×8.0 ~ 12.5J、(ステップリム) 21×8.5 ~ 12.5J ●P.C.D:4H-100、5H100 ~ 130 ●価格:(19インチ) 12万 ~ 15万8000円+税、(20インチ) 13万2000 ~ 17万円+税、(21インチ) 14万4000 ~ 18万8000円+税 ●カラー:(標準リムカラー)アウター:ハイポリッシュリム (オプションリムカラー)ブラックアルマイトリム、ブロンズアルマイトリム、ライトブロンズアルマイトリム 1万3000円UP、ブラッシュドアルマイトリム 6500円UP ●センターキャップ:(標準)クロムベース/HYPER文字ブラック/ORGED文字レド、ブラックベース/HYPER文字ブラック/ORGED文字レド、ブラックアルマイトベース/HYPER文字シルバー/ORGED文字レド (オプション)フェラーリ&マセラティ 純正CAP対応アダプター(ABS製) 8000円UP



2ピース鍛造HF 24-Sの19インチを選択。タイヤはネロではないピレリPゼロ。速いクルマをストリートで楽しく走らせるコンビネーションだ。

VW パサートに乗ってインジっているだけでも少数派なのに、最新 R ラインや US パサートを選んでイイ感じに乗りこなす。ひと味違う雰囲気出したいなら、パサートってイイ車種だ。

ザ・クリーンワゴン

OWNER>> 外山貴晴さん
CALL>>5x (ファイブエックス) [049]227-2555 www.5-x.jp
THANKS>>SHOW CARS (ショーカース) [048]856-5858 www.showcars.co.jp
PHOTO>>TOSHIO NOGUCHI (のぐちとしお)



01

サーフィンのためのコンフォートエクスプレス

この鮮やかなパールホワイトのサイドビューは、現行フォルクスワーゲン・パサートヴァリアント TSI R ラインのもの。埼玉・5x がコーディネートしたハイパーフォード HF-LC5 の 20×9.0J 前後通し、トーヨー・プロクセス T1 スポーツの 245/35R20 前後、KW Ver.2 車高調のマッチングは、いかにも 5x っぽい感じのクリーンさを見せ付けるが、ド現行と言えどここまでキレイ系に見えるのは、ボディ全体が徹底的にコーティングされているから。このヴァリアントのオーナー・外山さんは、さいたま市でショーカースというコーティングショップを営んでいるそうで、遊び専用車のヴァリアントにも

フルスベックでコーティングを施し、毎週のようにサーフィンに出掛けるんだとか。「手前味噌になってしまいますが、ホイールとガラス、ボディとドアサイドシル/ゲートサイドシルなどトータルでコーティングを施工し、その後、毎週週末往復 250km ほど走らせていますが、ぼっちり効果があって潮の影響は全然ありません。一度、コーティングが掛かっている代車を借りてサーフィンに行ったら、返却のときにクルマを洗ってもギリギリが取れなくてキレイにならない。本業ながら、コーティングの大切さを実感しました(笑)。パサートヴァリアントは、サーフィンでの使いや

すさでキメました。アウディ A4 アバントとも比較しましたが、ラゲッジスペースの高さが足りない感じで、デザイン的にもサーフボードを 4 枚載せるのに余裕がありませんから NG。そんな理由です。ホイールとサスは、5x・フカオさんにお任せです。このヴァリアントの前にはツーランに 20 インチのハイパーを入れてスタグーで乗っていましたが、今度は前後通し。車体の構造から、インセットも含めて 9.0J 前後通しでバツバツです」遊びのためのクルマこそ、キレイに仕上げた乗るのがカッコいい。そんなノリが伝わるパサートヴァリアントだった。



02

01_ボディは R ライン、ホイールは 20 インチのハイパーフォード HF-LC5。前後のホイールスポークを見て欲しい。フロント側はツインの 5 本スポーク、リア側は 2 叉点の粗メッシュに見えるハス。このデザインの二面性が、LC5 の人気の秘密だ。02_R ラインではスカートやリアサイドスカートなどにも専用用品が使われ、マフラーフィニッシャーは左右に設けられるが、マフラー本体は左側 1 本出し。右側フィニッシャーはデザイン上のものだ。



04



03



05

03_サーフボードを 4 枚載せて、息子さんと千葉の海へ毎週波乗りに出掛けるという外山さん。うらやましい感じでヴァリアントを使いこなしている! 04_ボディとホイールにはざざりコーティングが掛かっているため、海に頻繁に出掛けても問題なし。もちろん雪のシーズンでもガンガン走らせる。05_ホイールをクリーンに見せるために、定番のブラッシュドディスクとハイポリッシュリムが組み合わされる。タイヤはプロクセス T1 スポーツ。サイズは 245/35R20 と、ちょっと外径が大きくなっているが、これは純正サイズと外径を合わせたものだ。

■ SPECIFICATIONS_VOLKSWAGEN PASSAT VARIANT TSI R-LINE
WHEEL HYPER FORGED>>HF-LC5 F:20×9.0J R:20×9.0J Finish:Brushed Disk+Hi-polish Rim
TIRE TOYO TIRES>>Proxes T1 Sport F:245/35R20 R:245/35R20
SUSPENSION KW>>Ver.2 Adjustable Coilover